

幼児期からの運動遊び普及事業 取組結果

奈良県

取組の実施概要

【全体の事業目的】

1. **地域**で子どもたちが**継続的**に**運動遊び**を経験できる**環境整備**の推進
2. 子どもの運動・スポーツ・遊びに対する**保護者の行動変容**(運動させてみよう。自分も運動してみよう。)の促進

【ターゲット】

- R4年度：**総合型地域スポーツクラブ**を実施主体とした運動に興味を持っている子ども
- R5年度：様々な意識を持つ子どもにより幅広く働きかけるため、**教育・保育施設(幼稚園、保育所、こども園)**に通う子ども

【全体の実施内容】

- ①教育・保育施設指導者向け講習会の開催
県内教育・保育施設指導者等32名が受講
- ②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施
県内5市町・8教育・保育施設 全32回・のべ1,622名参加

(奈良市、天理市、橿原市、生駒市、三郷町)

<協力施設(市町村順)>

- ・明治わらべこども園(奈良市)
- ・天理市立北保育所
- ・常盤幼稚園(橿原市)
- ・生駒市立なばた幼稚園
- ・生駒市立俵口幼稚園
- ・生駒市立中保育園
- ・生駒市立小平尾保育園
- ・希望ヶ丘保育園(三郷町)

(保護者参加含む)

取組の実施概要

①教育・保育施設指導者向け講習会の開催

【目的】

幼児期の運動・スポーツ・遊びの意義や効果、「幼児向け運動・スポーツプログラム」等を活用した指導方法などについて学ぶ。

【講義内容】

(座学)

- 人生における幼児期からの運動遊びの重要性
- 良い指導者としての観点
- 保育の現場から見える子どもの実態

(実技)

- 「奈良県幼児向け運動・スポーツプログラム」を活用した運動遊びの具体的な指導方法
- コーディネーション能力と非認知能力の重要性
※1 ※2

(期待する効果)

- 指導者に対する啓発
- ベースを共有した指導者の育成・確保

※1 様々な種類の能力が総合的に発揮される能力

※2 数値で測りにくい社会情緒的スキル

取組の成果

①教育・保育施設指導者向け講習会の開催

【アンケート結果 (有効回答26名)】

Q. 今回の講演会は有意義だったか。

- とても有意義 **92.3%**, どちらかといえば有意義 **7.7%**

Q. 指導者が子どもに感じる課題は？ (複数回答可)

- 体の操作が未熟な子どもが多い(**24.0%**)
- 色々な動きを経験していない(**22.7%**)

【成果・感想】

- **実技**時間を講習会に取り入れたことで、多くの指導者が感じる子どもの課題に資する指導方法を**視覚的・具体的に普及**することができた。
⇒ 今後、子どもの指導に県プログラムを**活用したいという意見100%**。

(アンケート回答)



講習会(座学)の様子



講習会(実技)の様子

取組の実施概要

②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施

【目的】

子どもの多様な動きの獲得、体力向上、健康の維持・増進等に繋げるため、教育・保育施設において定期的な運動環境を整える。

【内容】

(必須取組)

継続的な運動機会の創出

- 単発ではなく、委託期間内(10月~1月)に 4回以上 実施

保護者の行動変容を促す仕組の実施

- 以下の2点から選択(両方選択も可)して実施
 - a. 子どもと一緒に 保護者も運動に参加する機会 を設ける仕組
(例：親子での運動体験教室 等)
 - b. 子どもの 運動状況を保護者と共有する仕組 を取り入れる仕組
(例：紙媒体での連絡シート等)

(期待する効果)

- 子ども：運動を 続ける楽しさ を知る
- 保護者：子どもの 変化 を感じる
- 指導者：次年度以降の 継続実施 の検討

取組の成果

②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施

【継続した運動機会の創出の取組 例】

続けることでステップアップする楽しさ等を見つける。



バランスバイク 例)なばた幼稚園、中保育園等



マット・鉄棒等 例)小平尾保育園



体幹トレーニング 例)俵口幼稚園



ボール遊び 例)天理市立北保育所

取組の成果

②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施

【保護者へのアプローチ 例】



保護者も一緒に運動に取り組む機会を設ける

親子参加教室
例)常盤幼稚園

学んだことを自宅で保護者と一緒に取り組めるシート
(出来たらシールを貼る)

④ボール運動

<投げる・蹴る・キャッチする>

ボールを使ったスポーツはたくさん種類があります。道具が加わるとさらに種類が増えます。基本的な、「なげる・つける」動きと、足でボールを操作する動きを通じて、空間認識・バランス・体の動きを調整する力を養います。

アクティブチャイルドプログラム(※)で遊びながら楽しめます。
(※日本スポーツ協会が、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムです)



<手で打ち返そう>

飛んできたボールをつかむのは難しいけれど、手で打ち返すのは意外とできます。
新聞紙を丸めたものや、細長いタオルの真ん中をくくって丸くボール状にして、打ち返してみよう☆

ボールを打ち返す動きは、近づいてくる物の距離感を認識し、ボールが近づくタイミングに合わせて腕を動かします。はじめはタイミングがずれますが、何回もすることで、慣れてきます。バレーボール・野球・テニス・バドミントン・卓球など、多くのスポーツで使う要素です。



子どもと一緒に
やってみよう!

①しんぶんしをてのひらより少し大きく丸めます

②・お部屋の壁に向かって遠くからなげる (5回)
・少し離れたカゴに向かってなげられる (5回)

③向かい合って、とんできた「しんぶんしボール」を
・打ち返す (5回) ・つける (5回)

④向かい合って、「せーの」でお互いのボールを投げ
て交換する

がんばった感想

できたらシールを貼ろう

保護者との情報共有 & お家取組シート
例)生駒市立各幼稚園・保育園

取組の成果

②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施

【感想】

- **子ども** : > 親と遊べて楽しかった。 > 褒めてもらえた。
> 家でもやりたい。 > もう一度やりたい。 等
- **保護者** : > 一緒に運動する機会が少ないので楽しかった。
> 子どもの嬉しそうな笑顔を見て続けようと思った。
> 運動遊びを続ける中で子どもが楽しんでいることがうかがえて嬉しかった。 等
- **指導者** : > このような機会を継続することが重要。
> 講師を呼んで継続的に実施したことで普段の遊びでは出来ない動きを取り入れるきっかけになった。 等

【成果】

- 子どもの自尊心の向上、子どもの運動継続性の引き出し、
保護者の行動変容への好影響、
指導者が運動遊びに取り組む必要性の再認識 等
- ➤ **当初目的に沿って、関係者から好意的な意見が聞けた。**

取組の成果

②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施

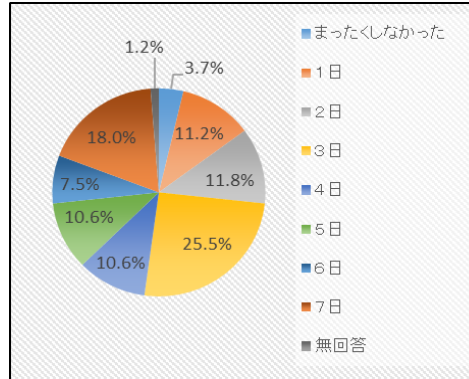
【アンケート結果】<子どもへの効果>

Q.子どもが週4日以上、60分以上の運動をしている割合。
 (保護者アンケート(161名)より)

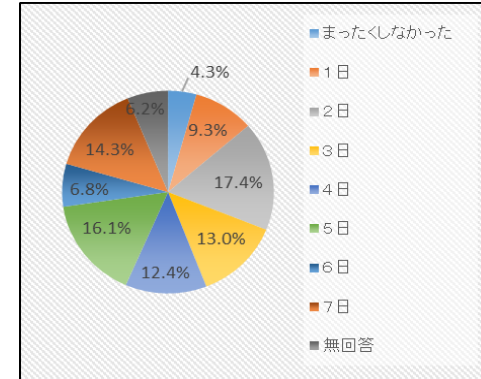
事業効果あり

取組前 (9.1%UP) 取組後
46.7% ⇒ **55.8%**

取組前



取組後

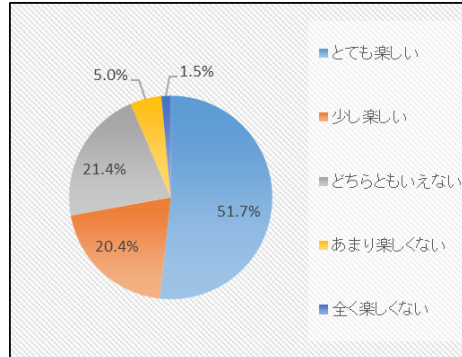


Q.身体を動かすことが楽しいと感じる割合。(子どもアンケート(201名)より)
 (とても楽しい&楽しいの割合)

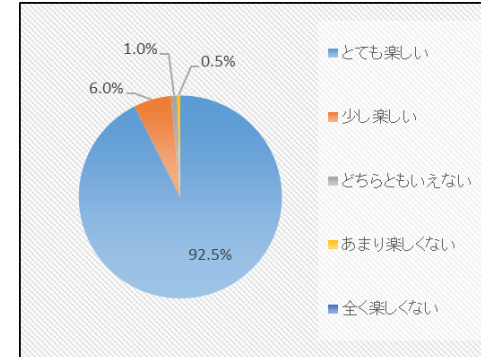
事業効果あり

取組前 (26.4%UP) 取組後
72.1% ⇒ **98.5%**

取組前



取組後



(参考)今後も「とても続けたい」割合
 ⇒ 取組後のみ確認 **86.6%**

取組の成果

②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施

【アンケート結果】<保護者への効果>

Q.運動をしようとする意欲についてどうか？(保護者アンケート(161名)より)

【現在運動なし&今後もしやらない割合】

やや事業効果あり

取組前 (2.5%down) 取組後
23.6% ⇒ **21.1%**

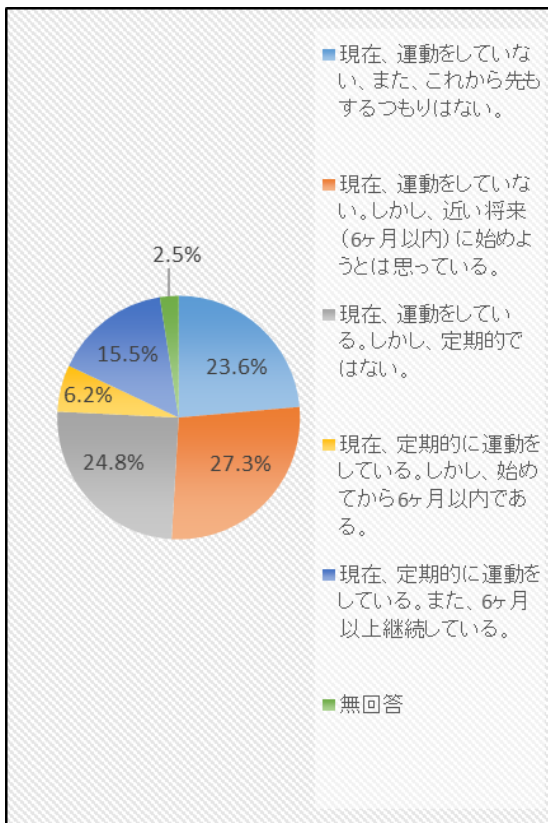
【近い将来(6ヶ月以内)に始める割合】

やや事業効果あり

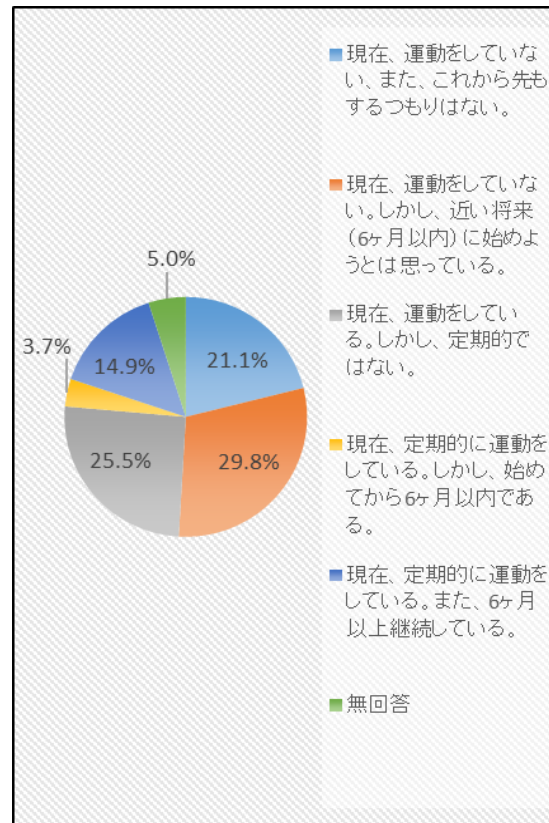
取組前 (2.5%UP) 取組後
27.3% ⇒ **29.8%**

意識変容に時間は要するが
 一定の効果は認められそう。

取組前



取組後



※ 週2～3回以上、運動時間1回20分～30分以上の運動を指す。

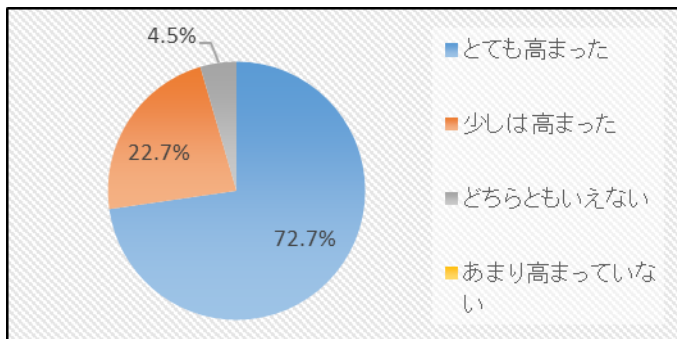
取組の成果

②教育・保育施設での定期的な運動遊びの実施

【アンケート結果】＜指導者への効果＞

Q. 今回の取組を通じて、子どもの運動意欲が高まったと思うか。

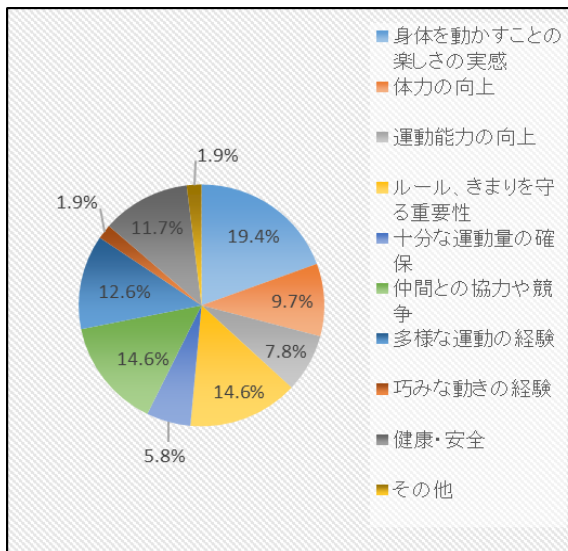
(指導者アンケート(22名)より)



72.7%が
子どもの運動意欲が「とても高まった」と回答。**事業効果あり**

Q. 日頃、運動・遊び活動の際に意識していることは？

(指導者アンケート(22名)より複数回答)



19.4%が
「身体を動かすことの楽しさの実感」を意識していると回答。

事業趣旨である「運動の楽しさ」を子どもに伝えていただいていることが分かった。

取組結果と考察

【取組全体を振り返って】

- 指導者や保護者に取組の訴求をする場合、**「実技」**を取り入れることで、より身近に、より実感として伝えることができることに改めて気づかされた。
 - ⇒ 言葉よりも**「実際に身体を動かさせる」**ことの重要性。
- 子どもが楽しめば、保護者も好意的に運動遊びを捉えてくれる & 家庭でも取り組んでくれることが実感できた。
 - ⇒ **「子ども巻き込み型」**の有用性。
 - ⇒ ただし、意識変容には**時間がかかる**点に留意。

【反省点】

- 事務手続きの関係上、各教育・保育施設で取組に協力いただくための準備期間、実施期間が短くなったことから、当初想定よりも協力施設数の確保がかなり厳しかった点。
 - ※ 各施設が年間スケジュール調整後の依頼となったことも要因。
 - ⇒ 個別依頼等で調整したが、次年度以降の取組方法は要検討(参照：今後の展開)。

取組結果と考察

【今後の展開】

- 取組の有用性は確認出来たため、今後は展開のしやすさを重視して、地域内の**総合型地域スポーツクラブを核**として、**教育・保育施設と協働**で取り組みに当たってもらう想定。
- ⇒ 今回、事業に取り組む中で感じたが、教育・保育施設は、年間行事や通常業務に忙殺されることが多いことから、県事業に参画したくても、改めてのスケジュール調整、不慣れな事務手続、外部講師との調整等が必要なことに二の足を踏む施設が多かった。
- ⇒ そのため、地域内の普段から外部調整等に慣れている「総合型地域スポーツクラブ」が調整等を担うことで現場が対応しやすい事業展開に繋げるとともに、各施設と総合型地域スポーツクラブ間の連携強化にも繋げたい。

ご清聴ありがとうございました。